



(はじめに)

●各項目の留意点

[項目のねらい]

教会がキリストの生き方を伝えるために働くとき、その対象は私たちの身の回りにいる、今の時代に生きる人たちであり、そのために信徒が大切な役割を持つことを確認する。

◇分かち合いのポイント◇

・教会、なかでも信徒が日々関わるのはどのような人たちが、その人たちの抱く夢や希望はどのようなものか、普段接する周りの人たちのありのままの姿や価値観を確認し合う。

・そのような人たちが、教会にとっての「新しいいぶどう酒」であり、裁いて排除するのではなく関わっていくために、「新しい皮袋」を用意することがこれからの課題となる。

1. エッ！信徒奉仕職？

[項目のねらい]

(はじめに)

2. 「フロック化」と関係あるんですか？

[項目のねらい]

フロック化にともなう共同宣教司牧・協力宣教司牧において、信徒の協働、信徒奉仕職は欠かせないものであることを確認する。

◇分かち合いのポイント◇

・第一の「信徒の協力は欠かせない」質問は、フロック化にともなうものを中心にするが、難しい場合は一般的なこともよい。

・第二の質問は、司祭・修道者・信徒の「共同」や「協力の現状を確認する。ここでは現状を批判せず、まずは肯定的な面を出し合う。

・ただし、分かち合いの時間に余裕があれば、共同宣教司牧や協力宣教司牧を進めていくための課題について考えてもよい。

また、「まじめ」の話として、共同・協力を発展させるために何をしなければならぬか、ということに触れるのはかまわない。

3. 「信徒が働く」としてよね？

[項目のねらい]

教会の宣教司牧活動において、信徒の働きは、司祭の働きの付け足しや司祭に従属したものではなく、欠くことのできない独自の役割を持つことを知る。

◇分かち合いのポイント◇

・実際に自分が属している小教区などでの経験をもとに、まずそれぞれが担っている役割・立場について現状を分かち合う。

・「司祭にしかできないもの」については、司祭などから、叙階の秘跡を必要とするものとして何かがあるか、できる限り既成概念にとらわれない正確な解説を受けるようにする。

・司祭のあり方については、あとの項目で改めて取り上げる。また、このプログラムの目的は信徒の奉仕の必要性を学ぶものなので、司祭の話が中心にならないよう注意する。